

# 今月の星空



川口市立科学館  
Kawaguchi Science Museum

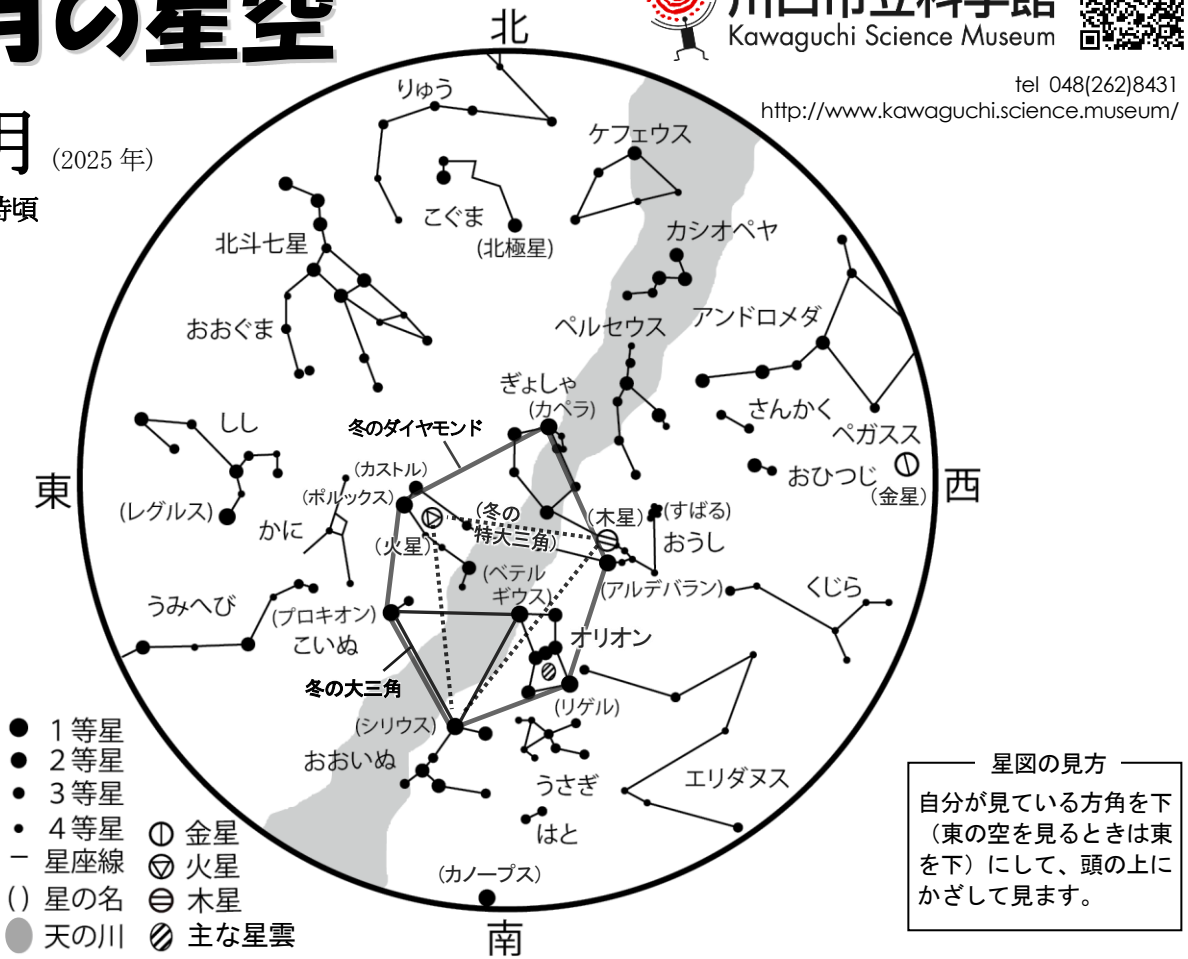


tel 048(262)8431

http://www.kawaguchi.science.museum/

2月 (2025年)

中旬 20 時頃



月 齢 ● 上弦 5 日、○ 満月 12 日、◐ 下弦 21 日、● 新月 28 日

## 惑星情報

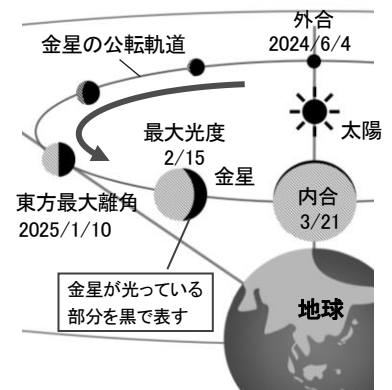
金星 日の入後 西(うお座 -5等) 火星 夜のはじめ頃 東→南東(ふたご座 -1→0等)  
木星 夜のはじめ頃 南→南西(おうし座 -3→-2等) 土星 日の入後 西(みずがめ座 1等) ※上旬まで

## ★冬のダイヤモンドと豪華！冬の特大三角！？（今季限定）

今年の立春は2月3日（節分は2月2日）で、暦の上では例年より一日早い春の訪れとなります。夜空では春の星座のしし座が東の空に姿を現す頃ですが、夜空の主役は、満を持して南の空に昇ってきた冬の星座たちです。1等星が多く輝き、市街地からでも多くの星座をたどれます。手始めに、オリオン座を目じるしに、ベテルギウス、シリウス、プロキオンをつなぐ「冬の特大三角」を見つけましょう。さらに、範囲を広げて、「冬のダイヤモンド（冬の特大六角形）」までたどれると良いでしょう。ただし、今季はそれらの1等星よりも明るい木星と火星が付近にあるので、惑わされないよう注意が必要です。それならば、星図のとおり、特に目立つマイナス等級の木星（約-2.5等）、火星（2月中 -1.1→-0.3等）、おおいぬ座のシリウス（-1.4等）をつないで、大きな三角形をつくるのもおすすめです。星座の星に対して惑星の位置は大きく変わってしまうため、今だけの豪華な“冬の特大三角”と言えるでしょう。

## ★2月15日 金星が最大光度～金星の明るさと満ち欠け～

金星が昨年12月頃から日没後の高度が高くなり、見ごろを迎えています。2月15日には「最大光度」となり、その明るさは、-4.9等に達し、澄んだ空では昼間でも見つけられるほどです（探すときは太陽を見ないように注意）。昨年12月頃（-4.3等）と比べても2倍近く明るくなっています。地球から見て満ち欠けして見える金星は、地球との位置関係で明るさも変化しています。実は、最大光度の頃の金星は、右図のとおり三日月型に欠けています。一見、「外合」前後の金星は満月型に近いので、明るいように思うかもしれませんが、地球から遠く離れているため、明るくはありません。一方、最大光度の頃は、地球との距離が外合の頃に比べて4倍も近いことなどから、欠けた状態だとしても最も明るく見えます。3月に入ると高度が低くなり見つけづらくなるため、今のうちに「宵の明星」を楽しみましょう。



参照：国立天文台

図 地球から見る金星と太陽の位置関係(金星の満ち欠け)